

いま水俣病を 考えること

Contemplating Minamata Disease Today

鹿児島の水俣病を撮りつづける写真家との対話

1956年の公式確認から67年が経過する水俣病問題。その姿は、時に立場を異にする人々の闘いであり、日常の中でつい目を背けがちな場面の連続でもありました。しかし、患者とその家族、そして彼らを支える人々が向き合ってきた苦難とその足跡は、多様な悩みをかかえて現代を生きる私たちの道しるべとなってくれるのではないのでしょうか。

鹿児島県の水俣病を見守る写真家小柴一良氏を迎え、撮り続ける意味や写真が果たす役割について考えます。どうぞ、身がまえることなく、普段着のままの心と眼で水俣病の歴史を受けとめてみてください。それはきっと、私たちすべての明日への糧となるはずです。

ゲスト：小柴一良
(写真家)

日時：12月2日(土)
13:00 - 15:30

場所：鹿児島大学 法文学部
1号館 2階 201教室

駐車場はありません。公共交通や周辺パーキングをご利用ください。

プログラム

- 13:00 【第1部】
水俣病のおさらい
中川 亜紀治 (鹿児島大学 理学部)
- 14:00 【第2部】
水俣を撮る写真家との対話
小柴一良氏をむかえて
進行：農中 至 (鹿児島大学 法文学部)
登壇者：小柴一良 (写真家)
中野 あずさ (南日本新聞社)
中川 亜紀治 (鹿児島大学)
- 15:10 「水俣・写真家の眼」活動紹介
奥羽 香織 (一般社団法人
水俣・写真家の眼)
- 15:30 閉会

2023.12.2